

ベ ス ト ピ ア
Bestopia

「パリ通信 24号」

ベストピアは小原靖夫の個人誌です。

平成二十五年十二月
第二十四号

< 2013年 12月 >

古賀 順子

人との距離

11月末から一週間ほど東京で仕事をする機会がありました。成田空港に降りると、15℃を越える暖かさと眩しい冬の日差しに迎えられました。東京都内へ向うリムジンバスから見える銀杏並木は黄色く、赤く色付いたモミジに日本の美しい紅葉の季節を感じました。

東京の晴天に感動するのも束の間。翌日からは厳しい通勤ラッシュ、東京のリズムについていくのはたいへんでした。朝7-8時代の地下鉄や電車は満員。駅のホームには無言で整然と電車を待つ乗客の列。割り込む人もなく、ぎゅうぎゅう詰めの満員電車でも静かです。パリのメトロやバスと違って、おしゃべりや電話をする人は一人もいません。スマートホンの画面に向っている人、小さく開いた雑誌や本を読んでいる人、居眠りをする人などさまざまですが、どれも超過密な車両に居合わせる他人を見ようとはしません。まるで申し合わせたかのように人と視線を合わせず、自分だけの世界にじっと閉じ籠っているようでした。きよろきよろと周りを見ているのは私だけで、東京の通勤電車の空間に不思議な思いがしました。

パリにも通勤ラッシュはあります。とくに郊外からの乗客を運ぶ快速線 RER (Réseau Express Régional)は朝夕混みます。しかし、東京の比ではありません。2010年の数字ですが、パリ市の人口は220万人。イル・ド・フランスの首都圏を含めて1,200万人です。これに対して東京都の人口は900万人。東京と千葉県、埼玉県、神奈川県を合わせた人口は3,500万人。日本の人口の4人に1人が首都圏にいる計算になります。東京の人口集中度は群を抜いているとしか言いようがありません。圧倒されます。

人口過密な東京では、他人との物理的な近距離を受入れざるを得ません。人と一定の距離を保ちたいのは日本もフランスも同じです。東京では、人を見ないことで人との心理的な距離を確保しているように思えました。その反面、私的な空間ではかなり距離を置きます。

スキンシップが基本で、私的な空間では親密なフランス人ですが、メトロやバスを始めとする公的空間では、他人を見て、他人にサインを送ることで絶えず一定の距離を確保しているように思います。混んだ車両に乗っても、周りを見渡すとだれかと視線が合います。混んでいますね！と言わんばかりにお互いにこりとすることがあります。男女を問わず、絶えず人を意識し、人との物理的・心理的な距離を図りながら自分の場所を確保していると思います。

かつて東京で働いていたときには何も考えずに利用していた通勤列車ですが、久しぶりに乗ってみると以前とは違った印象を受けました。東京の大きさに圧倒され、複雑になった交通網に戸惑い、人間の生活空間について考えさせられました。

パリに戻ると、街角の至るところでクリスマスの照明が灯っていました。日はますます短くなり、西の国だと改めて感じます。クリスマスを間近に控え、百貨店も日曜営業です。師走の人出、車の渋滞が目につくようになりましたが、日曜日の新宿三丁目の威圧的な人混みを歩いたあとでは、パリの混雑はまばらにさえ見ええました。

パリの生活空間は、人との距離をコントロールできるから人間的なのだと思います。東京に比べれば、一日の行動半径が圧倒的に狭いので、移動のストレスがありません。横道に逸れる時間の余裕があります。人に近寄ったり、離れたたり、各自のリズムで生活することが許される空間なのだと実感しました。